



2020
ANNUAL
REPORT

公益財団法人大阪みどりのトラスト協会

2020.4 - 2021.3 年次報告書



日頃より、大阪みどりのトラスト協会の事業にご理解・ご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。



当協会は、1989年に大阪府と府内市町村からの出捐金、企業や個人の寄附金により設立されました。以来30年以上にわたり、「みどりの未来をわたしたちの手で」を合言葉に、府民や多様な主体の参画や協働により大阪府域の自然環境・生物多様性の保全、みどり豊かで快適な環境づくりに取り組んでまいりました。



昨年度(2020年度)は、緑の募金が目標額を下回り、多くのイベントが開催できなくなるなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けましたが、三草山ゼフィルスの森、地黄湿地、和泉葛城山ブナ林の「三大事業地」の保全活動が各検討会のご指導のもと着実に行われたほか、個人の方から高額のご寄附を賜るなどのうれしいこともありました。



2020年度より始めました当協会の3カ年の中期経営計画では、「コーディネーターとしての役割の重視」、「ITを活用した情報発信の強化」、「収支が均衡する経営体制の確立」を基本方針に掲げ、協会の持続可能な運営体制を構築することを目標としています。この目標の実現に向けて、現在、理事会と事務局が一丸となって、業務管理体制及び経営資源の適正化、サービス及び生産性の向上等の取り組みを進めているところです。



1990年度に創刊し年数回の定期発行を続けてきた当協会の会報「みどりのトラスト」は、2020年度冬に103号を数えるに至りました。2021年度からは、中期経営計画の方針を踏まえ、本格的にホームページやメールマガジン、SNSなどの電子媒体を活用した情報発信に軸足を移し、年に1回、アニュアルレポート(年次報告)という形で冊子にとりまとめることとしました。この度、2020年次報告書を発行しましたので、皆様のお手元にお届けいたします。



当協会は引き続き、大阪府域に残された貴重な野生生物の生息する自然環境の保全事業、他団体と連携した府内各地の里山の自然環境の保全を進めるほか、「緑の募金」による学校や市街地の緑化推進事業、緑の担い手の育成などの事業を推進してまいります。今後も変わらぬ皆さま方のご支援をお願いいたします。

2021年7月

公益財団法人大阪みどりのトラスト協会
会長 石井 実



大阪の自然の豊かさ

生物多様性から得られる恵み「生態系サービス」と私たちの暮らし

大阪産業大学大学院人間環境学研究科長、大阪みどりのトラスト協会理事 前迫 ゆり

2

自然環境保全事業

5

和泉葛城山ブナ林保全事業	6
三草山ゼフィルスの森保全事業	8
地黄湿地保全事業	10
歌垣銀寄栗の森保全事業・自然環境保全地域支援事業（社寺林）	12
府内自然環境保全活動支援事業（大阪里山ネットワーク）	13
大阪さともり地域協議会の運営	14
企業CSR等支援事業	15
御堂筋アメニティ事業 他	16

緑の募金事業

17

緑の募金 収入・支出について	18
緑の募金運動推進事業	19
緑化推進・森林の整備事業	
・ 緑化推進事業等交付金 ・ 堺第7-3区「共生の森づくり」の推進 ・ 生駒花屏風支援事業	20
・ 平和の緑づくり事業 ・ 緑の少年団活動支援事業	21
・ 緑化推進運営協議会の運営	22

森林環境教育・森林ESD 普及啓発 その他

23

森林環境教育・森林ESDの推進事業	24
・ みどりづくりの輪活動支援事業	24
・ 「学校に森林と木の香りを」整備事業	25
普及啓発事業	26
令和3年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール	27
会議開催状況	28
資料	29

ご支援・ご協力

32

大阪の自然の豊かさ

生物多様性から得られる恵み「生態系サービス」と私たちの暮らし

前 迫 ゆ り

大阪産業大学大学院人間環境学研究科長、大阪みどりのトラスト協会理事

2020年春以降、わたしたちは自由に自然を楽しむこともままならない時間を共有することになりました。とはいえ、今年の春は例年より早い3月中頃にキャンパスのソメイヨシノが咲きはじめ、5月には生駒山を渡る薫風を感じる事ができました。シイ・カシ類の展葉が終わる頃には、早くも梅雨入りとのニュースが流れ、森のせせらぎからはタゴガエルの鳴き声が聞こえてきました。コロナ禍であっても生きものたちはいち早く季節の変化に反応し、生命のネットワークを構築しているようです。

生物多様性はなぜ浸透しないのか

さて内閣府が行った令和元年度(2019)のアンケート調査(<https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-kankyuu/gairyaku.pdf> 2021年6月閲覧/QRコード①)によると、「生物多様性の言葉の意味を知っていた」と答えた人の割合は20.1%、自然に対して「非常に関心がある」という回答は11.0%にとどまっています。自然への関心はこの10年間に15ポイント以上、低下しています。



大阪府の令和元年度(2019)調査(N=1000)においても、「生物多様性」に対する認知度は17.5%であり(<https://www.pref.osaka.lg.jp/kikaku/mr/oqnet2019.html#06> 2021年6月閲覧/QRコード②)、大阪府が2020年度目標に掲げていた生物多様性の府民認知度70%をはるかに下回っています。自然の劣化が進行している現状とこのアンケート結果をどのように考えればいいのでしょうか。



大阪の自然の豊かさ

林野庁によると大阪は森林率が30%、47都道府県の中なかで最下位です。しかしながら、大阪は三方を山に囲まれ、社叢の照葉樹林、ケヤキが生育する溪畔林、中間温帯のモミ・アカガシ林から温帯のブナ林(図1)まで、多様な自然林を擁しています。北摂のコナラ・クヌギ林では炭焼きが行われ、地域資源が活用されています。残



図1. 和泉葛城山のブナ林
太平洋型ブナ林は一般的に森林更新が不順とされている。このブナ林も同様である。2020年秋は数年ぶりにブナの種子の豊作年だったが、林床はミヤコザサに覆われており、実生更新は良好とはいえない。



種子散布後(矢印)の和泉葛城山のブナ(2020.10.31撮影)



存する台場クヌギからは自然と向き合った先人の知恵に思いを馳せることもできます。三草山のナラガシワ林には絶滅危惧種のヒロオビミドリシジミなど10種のゼフィルスが生息するなど(「三草山ゼフィルスの森」<https://www.ogtrust.jp/project/mikusayama.html> 2021年6月閲覧/QRコード③)、それぞれに課題は抱えていますが、大阪の地域ごとに多様な森林生態系が息づいています。



琵琶湖に端を発した淀川には絶滅危惧種のイタセンパラが生息し、河口付近のヨシ原にはアシハラガニが多数の巣穴を作り、ヨシ原からは「ギョギョシ ギョギョシ」というオオヨシキリ特有の鳴き声が聞こえます。都市を流下する淀川は豊かな生きものを育み、水と土とミネラルを運び、大阪湾に注ぎます。大阪湾の海の恵みは生態系を育むのはもちろんのこと、われわれの食卓をも豊かにしてくれます。

森と川と海に恵まれた大阪の自然はまさに多様です。その一方、生物多様性が抱える4つの危機; オーバーユース(第1の危機)、アンダーユース(第2の危機)、外来種の脅威(第3の危機)、地球温暖化(第4の危機)にも晒されており、大阪の自然は危うさのまっただ中にあるといっても過言ではありません。その多様性と危うさは、まさに日本の自然の縮図ともいえるものです。

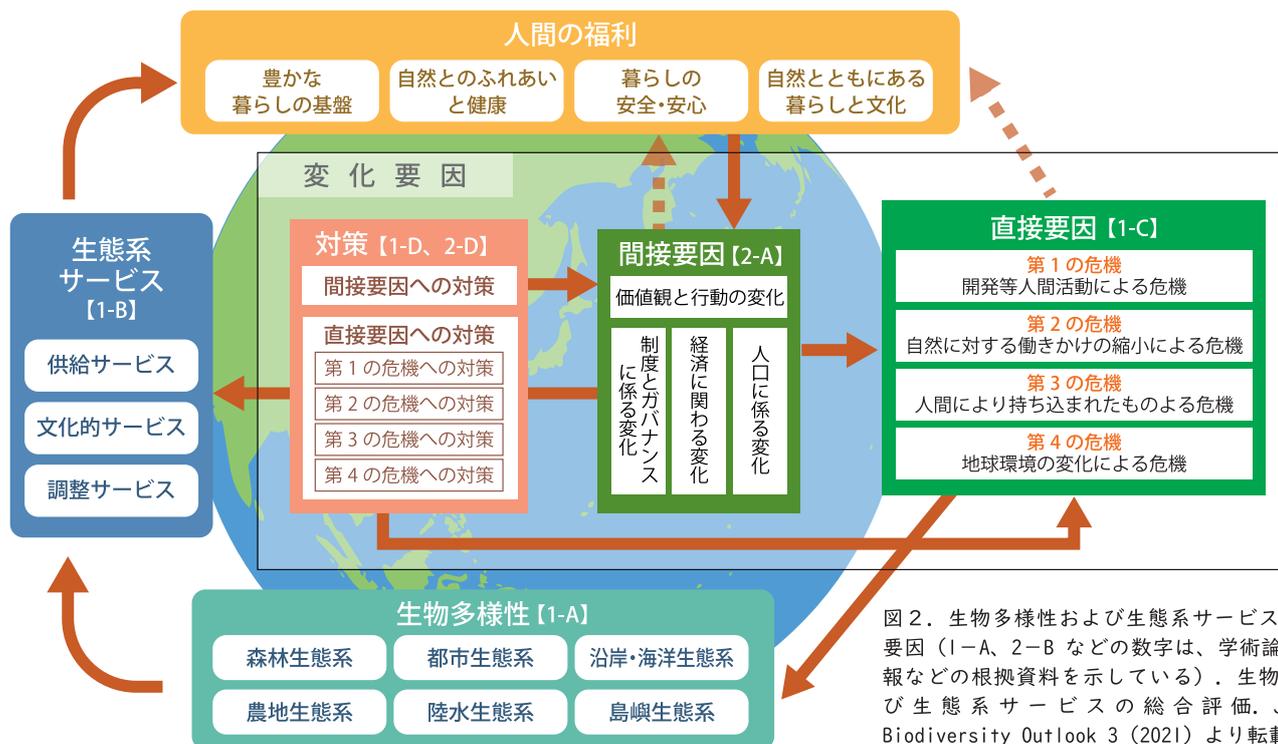


図2. 生物多様性および生態系サービスとその変化要因(1-A, 2-Bなどの数字は、学術論文、統計情報などの根拠資料を示している)。生物多様性および生態系サービスの総合評価, JB03: Japan Biodiversity Outlook 3 (2021)より転載。

生物多様性がもたらす生態系サービスの総合評価

環境省は2021年に「生物多様性」がもたらす「生態系サービス」の総合評価を行い、「人間の生存と福利」に欠かせない生物多様性の状態が悪化傾向にあること、また生態系サービスの多くが過去と比較して減少または横ばいで推移していることを報告しました(図2. 生物多様性および生態系サービスの総合評価, JB03: Japan Biodiversity Outlook 3, 2021)。

生物多様性の損失を止めて、回復に向かわせるための「社会変革」のあり方は「生態系サービス」を劣化させることなく次世代につなげるための重要課題です。生物多様性条約COP10(2010年名古屋開催)において、すでに「自然共生社会」の提案はなされていますが、コロナが地球レベルで拡散したことによって、人間が環境に与えている負荷もまた明確となりました。ウィズコロナ・ポストコロナ時代には自然共生社会への転換が、わたしたちの豊かな暮らしにとって重要な社会変革となるのではないのでしょうか。

生物多様性の第2の危機である里地里山の管理・利用の縮小は、「人口動態」といった社会構造の変化と関係し、「人々の地域への関心」といった間接要因とも関係します(JB03, 2021)。大阪の森林率は低いものの、里山の保全活動はきわめて活発に行われており、大阪の里山は「地域への関心をもつ人々」によって支えられています。大阪の里山活動に関する情報は当協会の「大阪里

山ネットワーク」(<https://www.ogtrust.jp/satoyama/> 2021年6月閲覧/QRコード④)に詳しいのでぜひご覧ください。



生態調査からみえてくる生きものの挙動と地域環境の保全

生物多様性の保全において、自然の挙動をモニタリングする基礎調査は欠かせません。研究室には自然に興味をもつ学生が集まり、ゼミを通して卒論テーマを決めます。著者は植物生態学が専門ですが、基本的に卒論テーマは学生の興味にしたがって決めます。数年前になりますが、高校時代からオオムラサキ(国蝶、準絶滅危惧種、タテハチョウ科)に興味をもつ学生(坂本陸王さん)がゼミに入りました。そのときの卒論調査は意外に興味深い結果でしたので、ここでご紹介したいと思います。

オオムラサキの幼虫はエノキを食草とすることが知られています。しかしエノキが生育していれば、必ずオオムラサキが生息するというわけではありません。そこで大阪府下のある地域(ここでは具体的地名を伏せておきます)のエノキの分布を調査するとともに、幼虫の生息を規定している要因を調査しようということになりました。オオムラサキ(図3)と同じタテハチョウ科でエノキを食草とするゴマダラチョウ(図3)も調査対象とし、幼虫の個体数と5カ所のエノキに温度と湿度のデータロガーを設置して気象条件を調査しました。

2種の幼虫(図3)は、夏から秋にかけてエノキの葉を

図3. オオムラサキ①、冬季にエノキの葉裏で越冬するオオムラサキの幼虫②、正面から見たオオムラサキの幼虫③、5月にふたたびエノキに登り、羽化を待つオオムラサキの終令幼虫④、ゴマダラチョウ⑤、ゴマダラチョウの幼虫⑥。



オオムラサキ	0	0	少ない	中程度	多い
ゴマダラチョウ	多い	少ない	少ない	中程度	多い
温度 (°C)	4.4±3.9 ^a	4.3±3.1 ^a	3.6±3.3 ^b	2.9±3.0 ^c	1.5±3.2 ^d
湿度 (%)	66.8±16.5 ^a	69.5±14.5 ^a	75.2±15.6 ^b	78.5±12.4 ^c	79.6±12.2 ^d

表1. オオムラサキとゴマダラチョウが生息する温度と湿度の比較 (2月～9月の連続データの平均値)。アルファベットの違いは有意差があることを示す。

食べ、冬になると落ち葉の中で越冬します。春には再び樹上に移動し、エノキの葉を食べて成長し、蛹を経て6月以降、羽化します。樹上の幼虫をカウントするのは難しいため、越冬中の落ち葉にいる2種の幼虫の個体数をカウントして生息状況を把握しました。

その結果、5カ所のエノキのうち3カ所でオオムラサキの幼虫を確認しました。オオムラサキの個体数が多い地点と生息しない地点では統計的に有意に温度と湿度に違いがありました(表1、未発表)。表1の少ない～多いは冬季の幼虫の個体数です。調査地点ごとの、連続的な温度と湿度の計測データ(2月～9月)は、温度と湿度の微気象がオオムラサキの生息の可否につながることを示していました。一方、ゴマダラチョウは5カ所のエノキすべてで幼虫が確認され、オオムラサキに比べて高温と乾燥に強いことを示唆していました。オオムラサキ幼虫が生息しないエノキと生息数が多いエノキの生育環境は平均温度で約3°C、平均湿度で約13%の違いがありました。

季節別に温度と湿度環境を比較すると、この差異はさらに明確でした。オオムラサキ幼虫の生息温度および湿度環境の適応範囲は、ゴマダラチョウよりも限定され、湿度が高く、冬季、夏季ともに低温が維持される立地であることがわかりました。第4の危機である地球温暖化の傾向を考えると、未来にオオムラサキが生息できる環境が大阪に残されているかどうか、極めて危うい状況といえそうです。

エノキは元来、沖積立地に主要な生育適地があるため、森林は断片化し、宅地や道路に改変され、消失しやすい傾向にあります。オオムラサキの生息地を保全するためにはエノキの立地を保全することが不可欠です

が、なかでも水系に近く、夏季の低温と高い湿度が維持できる立地に生育するエノキがオオムラサキの生息場所として適しているようです。エノキはオオムラサキの食草であるため、両者が密接に関係していることは知られていますが、この調査によってオオムラサキの生息にはエノキの生育に加えて局所的な気象条件が密接に関係していることが検証されました。

自然に対する人々の関心と行動を未来へつなげる

第1の危機である生態系の開発・改変を減速する主たる間接的要因として、「人々の自然に対する関心」があげられています(図2、JB03、2021)。「生態系サービス」は人間の暮らしを支えていることが評価されながらも、生態系サービスを維持する「生物多様性」の危機(リスク)は増加しているという調査結果が得られています。たとえばエノキを伐って道路を拡幅する状況は日常的に起こりうる事案であり、エノキ林は第1の危機によって消失しやすい林分のひとつといえます。人々の自然に対する関心を高めることは、生物多様性のリスクを軽減させることにつながります。生物多様性から得られる恵み「生態系サービス」の保全の実現は、人々の自然への関心と行動にかかっているといえるでしょう。

前迫 ゆり

- ・ 学術博士
- ・ 専門：植物生態学
- ・ 大阪産業大学大学院 人間環境学研究科教授 研究科長
- ・ 植生学会副会長
- ・ 社叢学会理事
- ・ 地域自然史と保全 編集委員長 (関西自然保護機構)

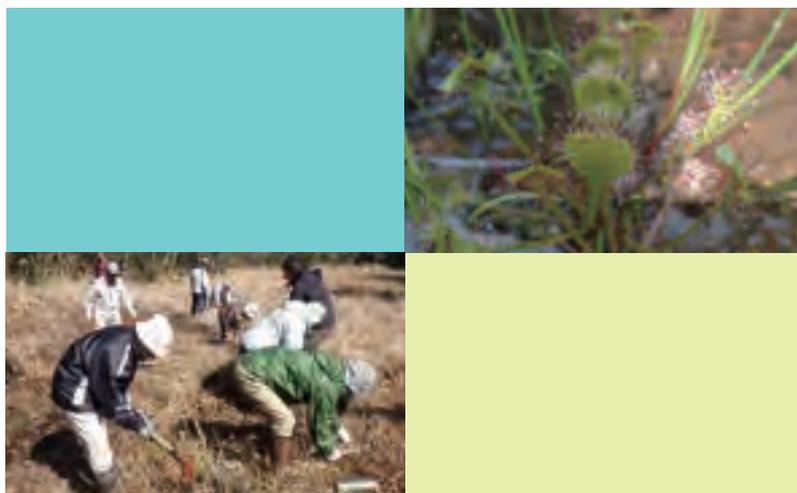




自然環境保全事業

大阪府は面積約1,900平方キロメートル。全国で2番目に小さい都道府県ながら、人口は全国で3番目に多く、約880万人が暮らしています。府内の土地の多くは、住宅地や商工業用地として利用されていますが、山や農地、川から海にいたる多様な環境には、8,700種を超える多くの生物がすみ、それらはお互いにつながりあいながら生きています。

自然環境保全事業では、大阪府を代表する自然環境である「和泉葛城山ブナ林(岸和田市・貝塚市)」、「三草山ゼフィルスノ森(能勢町)」、「地黄湿地(能勢町)」の保全活動を推進するとともに、府内の自然環境保全団体のネットワーク構築や企業CSR活動の支援などの事業を通して、大阪の自然環境・生物多様性の保全に取り組んでいます。



和泉葛城山ブナ林保全事業（岸和田市・貝塚市）



ブナ林は日本の冷温帯を代表する森林です。「和泉葛城山ブナ林」は、太平洋側の、しかも標高800メートル前後の比較的高度の低い位置に分布しており、ブナ分布の南限圏に近い場所でこのような純林が存続することに大きな価値があるとして、1923(大正12)年に国の天然記念物に指定されました。

現在、和泉葛城山ブナ林では、ブナの中径木が順調に育ちつつありますが、大径木の枯死が進み、稚樹が極端に少ないうえに、近年の種子生産状況も思わしくないなど、長期的に見るとブナ林としての存続が危ぶまれる状況にあります。

2020(令和2)年度は「和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会」(以下「保護増殖検討委員会」とする)と連携し、「和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画」の検討・とりまとめを重点的に進め、2021(令和3)年3月に印刷・配布を行いました。

また、春先の花芽調査において、種子豊作が見込まれたため、種子採取、播種・育苗に向けた準備・調整を精力的に進めました。しかし、健全種子の採取数は予定を大幅に下回る結果となりました。そして、2021(令和3)年5月現在、発芽は1個体にとどまっています。

上記2つの事業を進めるため、保護増殖検討委員会、同ワーキンググループ会議を複数回開催するなど、事業量が過大になったことに加え、コロナ禍のため、事業計画に掲げたいくつかの他の事業の実施を見合わせる事となりました。

【2020(令和2)年度の主な事業実績】

(1) 計画検討・調査等

- ・「和泉葛城山ブナ林 10ヵ年計画(令和3(2021)年度～令和12(2030)年度)」の策定
- ・ 種子調査、生育環境調査の実施



種子調査の様子：種子を集めるためのトラップを4箇所設置しました。



生育環境調査の様子：気象観測器からデータを回収しています。



10ヵ年計画は、協会ホームページからダウンロードできます。

2020(令和)2年の月間平均気温(生育環境調査より)(℃)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コアゾーン	2.3	2.2	5.5	7.7	14.8	18.7	20.2	23.5	18.8	12.3	9.2	2.4
バッファゾーン	2.9	2.9	6.1	8.2	15.4	19.2	20.7	24.2	19.2	12.7	9.7	3.1

(2) 保全活動等 (保全活動参加目標人数380人/実績260人)

- ・ 地元への委託によるブナ苗畑の管理
- ・ 和泉葛城山ブナ愛樹クラブによるバッファゾーンにおけるブナ若木の育成・森林保全等活動の支援
- ・ 種子採取・播種・育苗のためのマニュアルの作成、種子の採取・播種
- ・ 地元の方による巡回活動



種子採取の様子：一粒ずつ手で拾い集めました。



種子選別の様子：水につけ、浮き沈みを見て選別します。育苗の対象となる「健全種子」は100個程度にとどまりました。



播種の様子：12月16日、岸和田市塔原の苗畑に種を蒔きました。残念ながら、この場所では発芽は確認できていません。

(3) PR活動等

- ・ トラスト協会の会報誌「みどりのトラスト」やホームページ、フェイスブック、メールマガジン、貝塚市・岸和田市の広報誌、CATVなどを活用した情報発信、普及啓発

【2021(令和3)年度の主な事業】

2020(令和2)年度に策定した「和泉葛城山ブナ林 10ヵ年計画」に基づき、各種調査及び保全活動、府民向けの普及啓発活動を行います。

① コアゾーンにおける調査研究等

- ・ 昨年度に引き続き、花芽・結実調査、種子調査、生育環境調査を実施します。
- ・ 新たに、哺乳類モニタリング調査、2020(令和2)年の種子からの天然下種更新のモニタリング調査を実施します。
- ・ ナラ枯れの実態把握や対応策の検討を行い、対策を講じます。

② バッファゾーン等における調査研究・保全活動等

- ・ ブナ愛樹クラブ等によるブナ若木の育成・森林保全整備活動を支援します。
- ・ 植栽ブナ全数調査・天然ブナ全数調査準備として、個体番号の保全を行います。
- ・ 生育環境調査(継続)、哺乳類モニタリング調査(新規)を実施します。

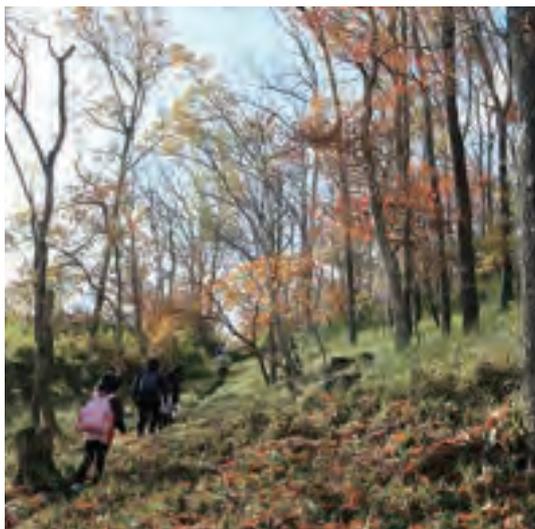
③ PR活動等

- ・ シンポジウム「和泉葛城山ブナ林の過去・現在・未来を語る」を開催します。(6月開催済み)
- ・ 企業等によるCSR活動の受け入れや、地元学校や博物館等地元他団体との連携など、保全活動拡大に努めます。

④ 運営・調整

- ・ 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会、同ワーキンググループ会議を開催し、専門家・関係者のご意見を伺いながら、上記事業を効果的かつ円滑に進めます。

三草山ゼフィルスの森保全事業（豊能郡能勢町）



大阪府の北端に位置する三草山(標高564m)の山麓部にあり、国内に生息しているゼフィルス(ミドリシジミ類の蝶の愛称)類25種のうち10種が確認されています。なかでもナラガシワの葉を食するヒロオビミドリシジミにとっては府内唯一の生息地であり、国内の分布の東限です。大阪府緑地環境保全地域に指定され、ゼフィルスの生育に必要な広葉樹の育苗や植栽、環境整備、野生鹿対策などの保全活動を行っています。

ここでは、毎年度初めに地元の保全活動団体や企業・学校・大学などさまざまな関係者が参画する「三草山ゼフィルスの森保全検討会議」を開催し、保全活動計画を策定しています。

保全活動を進めていくうえで、2018(平成30)年7月豪雨による三草山の山腹崩壊エリアの安全確保と、2021(令和3)年度に期限をむかえる地上権契約への対応は急務で、関係者と連携を図りながら対応を行いました。

【2020(令和2)年度の主な事業実績】

(1) 計画検討・調査等

- ・ 保全活動に関する長期計画策定に向けての検討
- ・ 森林の更新に伴うゼフィルス類への影響調査(大阪府立大学、日本鱗翅学会等)の実施
- ・ 森林環境の変化による植生や昆虫類への影響調査(大阪府立大学等)の実施
- ・ 「三草山研究助成」のスキーム検討と運営開始(新規)

(2) 保全活動等(保全活動参加目標人数340人／実績174人)

- ・ 能勢みどりすどクラブによるボランティア保全活動の支援
- ・ 更新作業の継続(伐採木は薪やシイタケの柵木に利用)
- ・ 地元の方による巡回活動



シカ除けネットの様子：ネットを水平に張り、保護効果を調べました。



検討会議の様子：保全活動の内容を話し合いました。



ボランティア活動の様子：防火帯などの下草刈を行いました。



ナラガシワの種子採集の様子：トラップを設置し、種子を採取しました。



萌芽更新施業の様子：高林化してきた約0.25haで萌芽更新を行いました。

(3) P R活動等

- ・ トラスト協会の会報誌「みどりのトラスト」やホームページ、フェイスブック、メールマガジンを活用した情報発信、普及啓発
- ・ 例年実施していた観察会はコロナ禍のため、一般募集を行わず、少人数で実施し、その模様をSNSで動画配信
- ・ 解説板の内容を更新し再設置



ゼフィルスエア観察会の様子：動画を作成し、SNSで配信しました。

(4) 災害・各種被害対応

- ・ 2018(平成30)年度の山腹崩壊地や神山・上杉進入路の現地調査を実施
- ・ 山腹崩壊地の復旧のため、大阪府と連携し保安林指定に向けて地元(平野区)に説明



解説板：古くなった情報を更新しました。

【2021(令和3)年度の主な事業】

次年度以降も継続して保全活動を行えるよう、地上権契約の更新と過去に自然災害にあった場所の復旧に努めます。また、コロナ禍における感染予防対策のもと定例活動を継続し、参加者の拡充を図ります。

①計画検討・調査等

- ・ 保全活動に関する長期計画を策定します。
- ・ 森林の更新に伴うゼフィルス類への影響調査(大阪府立大学、日本鱗翅学会等)を実施します。
- ・ 森林環境の変化による植生や昆虫類への影響調査(大阪府立大学等)を実施します。

②保全活動等

- ・ ボランティア保全活動(防鹿柵の管理、坪刈り、ササ刈り、ナラガシワの果実の採取、苗木の育成など)を支援します。
- ・ クヌギ、コナラ、ナラガシワなどの大径木の生育地を中心に、更新作業を継続します。(さとり事業・委託など)(伐採木は薪やシイタケの樽木に利用)
- ・ 巡回活動(地元へ委託)

③P R活動等

- ・ 観察会・保全活動体験会を開催します。
- ・ 企業等によるCSR活動の受け入れ支援や、周辺住民、地元学校や企業等との連携など、保全活動拡大に努めます。

④その他

- ・ 山腹崩壊地の復旧のための保安林指定や、地上権契約の更新に向けて調整を進めます。

地黄湿地保全事業（豊能郡能勢町）



地黄湿地は、面積1haに満たない貧栄養の滲水(しんすい)湿地です。サギソウ、トキソウ、モリアオガエル、日本一小さなハッチョウトンボ等、湿地特有の多様な動植物が生育・生息することから大阪府緑地環境保全地域に指定されています。

乾燥化・陸地化が進み湿地環境の衰退がみられていたため、1996(平成8)年から、湿地内の土留め、侵入木の伐採やススキの伐根、観察用木道の整備、人止め柵の設置などを行ってきました。

2014(平成26)年に学識経験者、地元住民、ボランティア団体、大阪府、能勢町、当協会等が連携して「地黄湿地再生保全検討会議」が設立され、推進体制を整えるとともに、2015(平成27)年度から2017(平成29)年度に、陸地化した区域の抜根、水環境の整備等の保全再生事業を集中的に行い、環境が改善されました。

その後も地道な保全活動を継続し、2020(令和2)年はハッチョウトンボが14年ぶりに確認され、トキソウやサギソウ等の重要な植物の良好な生育が確認される等、保全活動の効果がみられました。

【2020(令和2)年度の主な事業実績】

(1) 計画検討・調査等

- ・ 保全活動に関する計画策定
- ・ 水生昆虫調査(大阪府立大学との共同)の実施
- ・ 植生調査や植物調査(サギソウの開花数と分布状況の記録)の実施



サギソウ：例年以上の開花でした。



地黄湿地再生保全検討会議の様子。



植生調査の様子：植物の種や生育状況などを記録します。



ハッチョウトンボ：体長2cm程度の日本一小さいトンボです。

(2) 保全活動等(保全活動参加目標人数100人／実績121人)

- ・ ボランティア保全活動の支援
(沿岸林縁部の下刈り、湿地内の灌木・高茎草本刈り取り、湿地の水環境の改善、シルト質の補給改善、ウシガエルなど外来種捕獲等)
- ・ 委託による湿地の水環境の改善
- ・ 地元の方による巡回活動



過年度設置の土嚢堰を補修、追加する工事を行いました。

(3) PR活動等

- ・ 観察会・保全活動体験会の開催
- ・ 地元高校の環境学習と保全活動への協力
- ・ テレビ取材(NHKの「ニュースほっと関西」内「地黄湿地でトンボを見つける」)への協力
- ・ 能勢町広報誌での情報発信(「地黄湿地に待望のハッチョウトンボが戻ってきました」記事と、保全活動の案内)
- ・ 紹介動画の作成とSNSでの配信
- ・ リーフレットの作成
- ・ 「生物採取禁止」看板の設置(2枚の看板を作成)
- ・ 町指定天然記念物に向けた取り組み



動画を作成し、SNSで発信しました。



普及啓発看板



地黄湿地リーフレットは、協会ホームページからダウンロードできます。

【2021(令和3)年度の主な事業】

観察会や定例活動を継続し、参加者の拡充を図り、普及啓発活動を進めます。

①3カ年の事業計画策定

- ・ 重機を使った掘削による湿地の拡大、湿地袖部の草原化、湿地に影を落とす樹木の伐採、木道修復・新設、周辺森林整備、最下流部の浸食水路対策など、湿地環境の保全または復元に関する3カ年計画を策定します。

②保全活動等

- ・ 湿地内で比高が高く、乾燥している部分を重機で削って地形を平坦化し、湿地面積の拡大をはかります。
- ・ 貧栄養の水質と光環境を保つため、枯れた植物体の刈り払い、撤去を行います。
- ・ 周辺森林の整備について、伐採計画策定と地元等との調整を進めます。
- ・ 巡回パトロールを継続します。

③調査・モニタリング等

- ・ 湿地及び周辺森林において生育する植物種の目録を作成し、重要種等の分布状況を記録します。調査結果をもとに、過去のデータと比較、外来種の侵入状況の確認、森林整備の保全対策等に活用します。
- ・ 湿地及び周辺の水生動物調査(年3回)を行います。調査対象は節足動物および両生類とします。
- ・ 湿地及び周辺においてシカ等による植物の食害が確認されているため、自動撮影カメラの設置等によって状況を記録します。

④PR活動等

- ・ 一般参加観察会、自然解説板設置、地元高校環境学習等を行います。

歌垣銀寄栗の森保全事業（豊能郡能勢町）

歌垣銀寄栗の森保全事業は、公益社団法人大阪自然環境保全協会と協働で、2018(平成30)年度よりスタートさせた、銀寄栗の巨木の手入れをし、アリと共棲する蝶 キマダラルリツバメを守るために行っている活動です。当該地での保全活動は、地元拠点を構える大阪自然環境保全協会の保全グループ「歌垣SATOYAMA楽舎」が中心になって進めており、当協会は当該グループへの協力・支援を行いました。

【2020(令和2)年度の主な事業実績】

(1) 計画検討・調査等

- ・「(仮称)歌垣の森実行委員会」の設立準備サポート
- ・歌垣銀寄栗の森活動地及び周辺でのチョウ類、アリ類の調査(大阪府立大学との共同)

(2) 保全活動等(保全活動参加目標人数150人／実績212人)

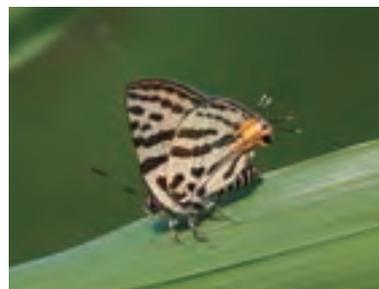
- ・栗園維持のための草刈り、栗苗木植樹(歌垣SATOYAMA楽舎と協働・支援)
- ・獣害(主にシカ)対策のネット張り及び補修(歌垣SATOYAMA楽舎と協働・支援)の実施。

(3) PR活動等

- ・保全活動拡大に向けた関係者(行政、周辺住民、地元学校や企業等)との連携
- ・普及啓発のための観察会・保全活動体験会の開催
コロナ禍のため、一般募集をせず、観察会・講演会(講師:上田昇平准教授 大阪府立大学)が行われた。



保全活動の様子：獣害対策のネット補修



キマダラルリツバメ

自然環境保全地域支援事業(社寺林)

鎮守の森と呼ばれる社寺林は、昔からほとんど人の手が入らず、本来の自然林に近い状態で残されています。大阪府では、自然環境を保全することが特に必要とされる5つの社寺林が自然環境保全地域に指定されています。当協会はこれらの社寺林の土地所有者(社寺)と保全契約を結び、自然環境の維持・管理活動に対し助成をしています。2020(令和2)年度は、それぞれの社寺林で次のような活動が行われました。

【妙見山(みょうけんさん)(能勢町、10ha)】

比較的低標高地帯(標高662m)にブナが生育し、アカガシなどの常緑広葉樹が混じった林相で、学術的にも貴重な樹林です。獣害防止柵の設置や柵内の下草刈りなどが行われました。



妙見山：獣害防止柵の設置

【本山(ほんざん)寺(高槻市、14ha)】

樹齢100年以上と思われる高木が多く、一部には、モミ、ツガ、カシ類などの優れた天然林が残っています。植物の種類も豊富です。巡視や登山者等へのマナーの啓発、林地内の防災安全点検、清掃活動などが行われました。



本山寺：清掃

【若山(わかやま)神社(島本町、11ha)】

樹齢200年前後のコジイを優占種とする極相状態に近い林相で、都市近郊にこのようなシイ林がみられることは珍しく、シイ林の周囲をシラカシが取り巻くように生育しています。2018年の台風21号による倒木被害の片付などが行われました。



若山神社：台風被害片付

【美具久留御魂(みぐくろみたま)神社(富田林市、2ha)】

樹齢200年前後のコジイをはじめ、ナナメノキ、アラカシ、サカキがみられ、丘陵地の典型的なシイ林となっており、河内地方では最古の神社の一つとされています。しめ縄会による森参道の土留めや2018年の台風21号による倒木被害の片付などが行われました。



美具久留御魂神社：土留め

【意賀美(おがみ)神社(岸和田市、1ha)】

コジイを主とする広葉樹林で、ミミズバイ、ホルトノキ、タイミンタチバナ、ツルクウジといった府内でも珍しい植物が見られる場所です。宮山保存会会員による草刈りや清掃活動が行われました。



意賀美神社：清掃

府内自然環境保全活動支援事業(大阪里山ネットワーク)

大阪府内で活動中の里山保全活動団体の情報を集約するサイト「大阪里山ネットワーク」を立ち上げました(2021(令和3)年5月18日開始)。このサイトは、登録いただいた各団体の広報・PRの場とするとともに、各団体からの情報発信、団体間の交流の場として活用していただくことを想定しています。6月30日現在、20団体が登録しています。今後、さらに多くの団体に登録していただき、サイトでの情報発信・交流などを通じて、大阪の里山保全活動の活性化に寄与したいと考えています。

大阪里山ネットワークホームページ
<https://www.ogtrust.jp/satoyama/>

【登録団体】

豊能地域

外院の杜クラブ
能勢里山クラブ
歌垣SATOYAMA楽舎
地黄の森FANクラブ

三島地域

本山寺山森林づくりの会
茨木里山を守る会
鉢伏山森づくりの会
車作里山倶楽部
特定非営利活動法人島本森のクラブ

北河内地域

交野里山ゆうゆう会
特定非営利活動法人森林ボランティア 竹取物語の会

南河内地域

特定非営利活動法人 里山倶楽部

泉州地域

せんごくの杜～さくらの里～
蜻蛉池公園 夢の森づくり隊
ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会
和泉葛城山ブナ愛樹クラブ
特定非営利活動法人 神於山保全くらぶ
里山ボランティアの会 蕎原
特定非営利活動法人 信太の森FANクラブ

大阪府全域

特定非営利活動法人 日本森林ボランティア協会

(2021(令和3)年6月30日現在)

大阪さとり地域協議会の運営

大阪さとり地域協議会は、2013(平成25)年度からスタートした林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業」の実施にあたって、大阪府域を対象として設置された地域協議会です。当協会はその事務局として、活動組織への交付金の交付、活動に対する支援や指導等を行ってきました。2021(令和3)年度も引き続き事務局として適正で円滑な事業の推進に努めます。

【2020(令和2)年度の主な事業実績】

- ・ 交付金申請採択団体
活動組織26組織
交付金 37,722千円
- ・ 大阪さとり地域協議会
総会(書面決議)
審査会1回(書面決議)
- ・ 安全講習・交流会
竹林整備におけるチェーンソーの安全な使い方研修会
交流会はコロナ禍のため中止



安全講習の様子

【森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の概要】

(林野庁HP「令和3年度林野庁予算の概要」より)

森林・山村多面的機能発揮対策

【令和3年度予算概算決定額 1,404 (1,353) 百万円】

<対策のポイント>
森林の多面的機能発揮とともに関係人口の創出を通じ、山村地域のコミュニティの維持・活性化を図るため、地域住民や地域外関係者等による活動組織が実施する森林の保全管理、森林資源の活用を図る取組等を支援します。

<事業目標>

- 各支援メニューごとに設定された森林の多面的機能の発揮に関する目標を達成した活動組織の割合(8割【令和3年度まで】)
- 地域外からの活動参加者数(関係人口を含めた活動への参加者数)が増加した活動組織の割合を毎年度増加

<事業の内容>

1. 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 1,393 (1,344) 百万円

- ① 地域住民や地域外関係者(関係人口)等による3名以上で構成する活動組織が実施する里山林の保全、森林資源の活用等の取組を支援します。
- ② 里山林の保全等(メインメニュー)の活動に組み合わせて実施する、護網の補修、関係人口の創出・維持等の活動(サイドメニュー)を支援します。
- ③ 森林経営計画が策定されていない0.1ha以上の森林を対象に支援します。採択に当たっては3年間の活動計画等が必要です。
- ④ 地方公共団体の支援のある活動や地域コミュニティの活性化を図るため中山間地域における農地等の維持保全にも関する取組、有人国境離島地域で計画された活動等を行う場合は、優先的に支援します。

2. 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 11 (9) 百万円

- ① 森林・山村多面的機能発揮対策交付金による活動の成果を評価・検証します。
- ② 地域協議会、活動組織を集めた活動内容の報告・意見交換会等を開催します。

<事業の流れ>

申請 1/27 1/27/28

国	地域協議会	活動組織
市	都道府県	市町村
県	民間団体等	

(10事業) (10事業)

<事業イメージ>

森林・山村多面的機能発揮対策交付金

①メインメニュー

 中山間地域を維持するための活動 最大12万円/ha	 侵入竹の伐採・除去活動 最大28.5万円/ha	 新しく採木などとして利用するための伐採活動 最大12万円/ha
--	---	---

②サイドメニュー(メインメニューと組み合わせて実施)

- 護網の補修・強化等支援
- 関係人口の創出・維持等の活動を支援
- 備材及び器材の整備を支援

↑ 活動組織への支援等

自ら設定する成果目標に基づき活動組織が事業の自己評価(モニタリング調査等)を実施

評価結果の活用

- 活動の成果の評価・検証(モニタリング調査の分析等を活用)
- 地域協議会、活動組織を集めた報告・意見交換会等

【お問い合わせ先】 林野庁森林利用課 (03-3502-0048)

企業CSR等支援事業

社員参加型の企業の森づくりなど、CSRとしての自然環境保全活動に関心のある企業に対して、大阪府や里山保全活動団体等と連携し、活動計画の提案や活動時の安全管理・指導などの支援を行っています。

自社フィールドで活動を行うケースや、当協会主催または関係団体の保全活動に団体で参加いただくなど、ご希望に応じたコーディネートを行っています。

2020(令和2)年度はコロナ禍のため、活動の中止や規模縮小となりました。

〈近年の大阪府アドプトフォレスト制度※を活用したCSR活動サポート事例〉

企業名	活動地	開始年度	サポート内容
株式会社タカミヤ	枚方市東部清掃工場 (枚方市)	令和元年	【準備段階】 <ul style="list-style-type: none"> 活動計画の企画提案 活動地の紹介、アドプトフォレスト制度契約締結・調印式の実施に関する調整 道具・機材の選定・購入支援 【活動開始後】 <ul style="list-style-type: none"> 活動時の安全管理・指導者の派遣 安全講習会の実施 土地所有者等関係者との各種調整 など
株式会社立花エレテック			

※大阪府アドプトフォレスト制度：手入れが行われずに荒廃した森林や竹林と、森を守りたい、森と親しみたいと考える事業者等(企業、労働組合、NPO、団体、学校等)を結びつけ、森づくり活動(間伐や植樹、下草刈りなど)を行う大阪府の制度です。



府庁舎で行われた調印式の様子：2019年8月



枚方市東部清掃工場緩衝緑地帯活動の様子：2019年11月



枚方市東部清掃工場緩衝緑地帯活動の様子：2020年3月

〈その他の主なCSR活動事例〉

企業名	活動地	タイプ	サポート内容
株式会社NTTドコモ関西支社	ドコモ泉南堀河の森(泉南市)	自社フィールド	<ul style="list-style-type: none"> 土地所有者との各種調整 里山保全団体との各種調整 活動時安全管理・指導者派遣 安全講習会の実施 クラフト体験等子ども向けプログラムの実施 など
鶴賀電機株式会社	いずみの森(和泉市)	関係団体活動地	
コンドーテック株式会社	いずみの森(和泉市)	関係団体活動地	
株式会社アサヒディード	和泉葛城山ブナ林(貝塚市・岸和田市)	協会主催活動地	
京セラドキュメントソリューションズ株式会社	三草山ゼフィルスの森(能勢町)	協会主催活動地	



ドコモ泉南堀河の森 CSR 活動の様子：2019年6月



いずみの森 CSR 活動の様子：2019年4月



三草山ゼフィルスの森 CSR 活動の様子：2019年3月

御堂筋アメニティ事業

御堂筋の緑地帯(淀屋橋～難波:約3.2キロメートル)にあるフラワーベース52基に、花卉類を植え付けて花と緑による装飾を施し、都市の緑化の推進とアメニティの向上に寄与しています。

2020(令和2)年度は、2回植付けを行いました。6月には大阪の夏の暑さの中でも綺麗な花を楽しませてくれることを期待して、暑さや乾燥に強い色とりどりのペゴニアを中心に、11月には花期が長く手入れ次第で他にはない美しい姿をみせてくれるパンジーを中心に植え付けました。

また、大阪市が実施する御堂筋将来ビジョンに基づく御堂筋側道の歩行者空間化等に協力し、フラワーベース2基の撤去を行いました。この側道歩行者空間化に伴い、今後も撤去が進む予定です。



6月植付けの様子:ペゴニアを中心とした植付け



11月植付けの様子:パンジーを中心とした植付け

グリーンウェイブとりまとめ

国連生物多様性の日(5月22日)に、世界各地の子どもたちが学校や地域などで植樹を行うグリーンウェイブ活動のオフィシャルパートナーとして、この活動の参加呼びかけと大阪でのとりまとめを行いました。

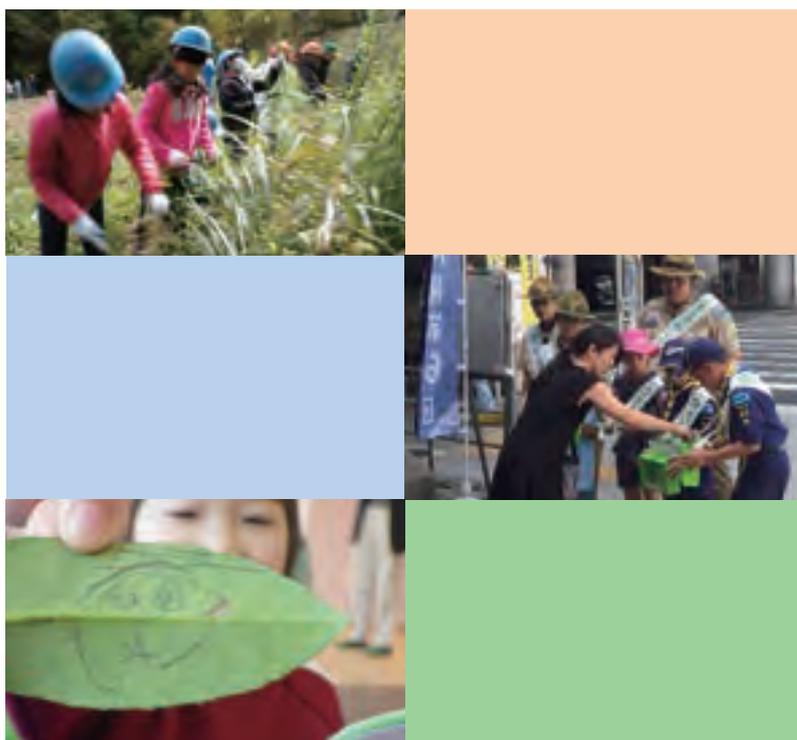
(2020(令和2)年度でグリーンウェイブの取り組みは終了となりました。)



緑の募金事業

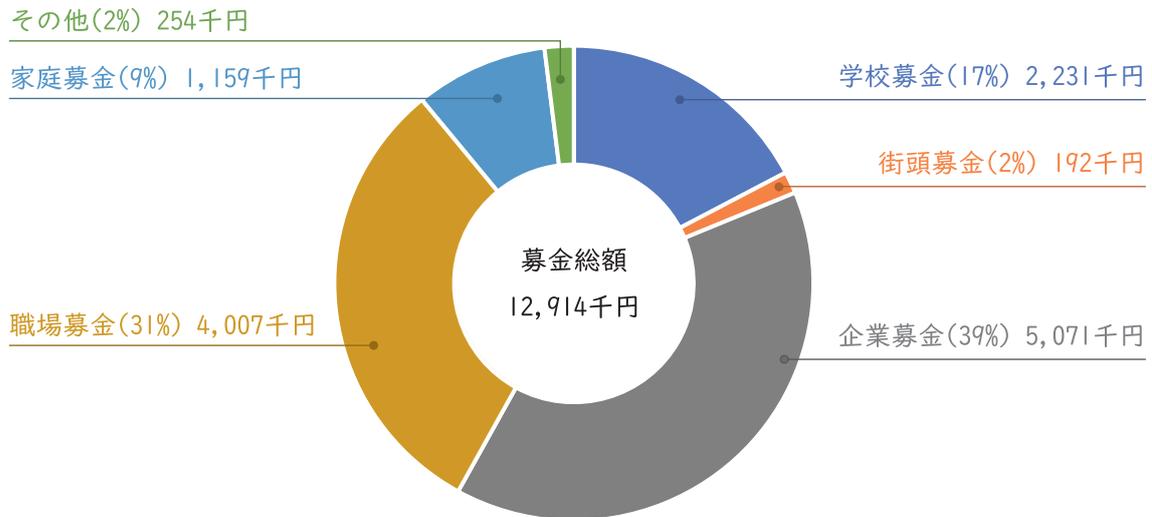
「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき寄付金の募集を行うもので、大阪府では、当協会がその業務を行う団体として指定されています。

府民・企業・団体などの皆様にご協力いただいた「緑の募金」を活用し、市街地や学校の緑化、また教育現場への助成事業として、みどりづくりの輪活動支援事業や「学校に森林と木の香りを」整備事業などを実施しています。



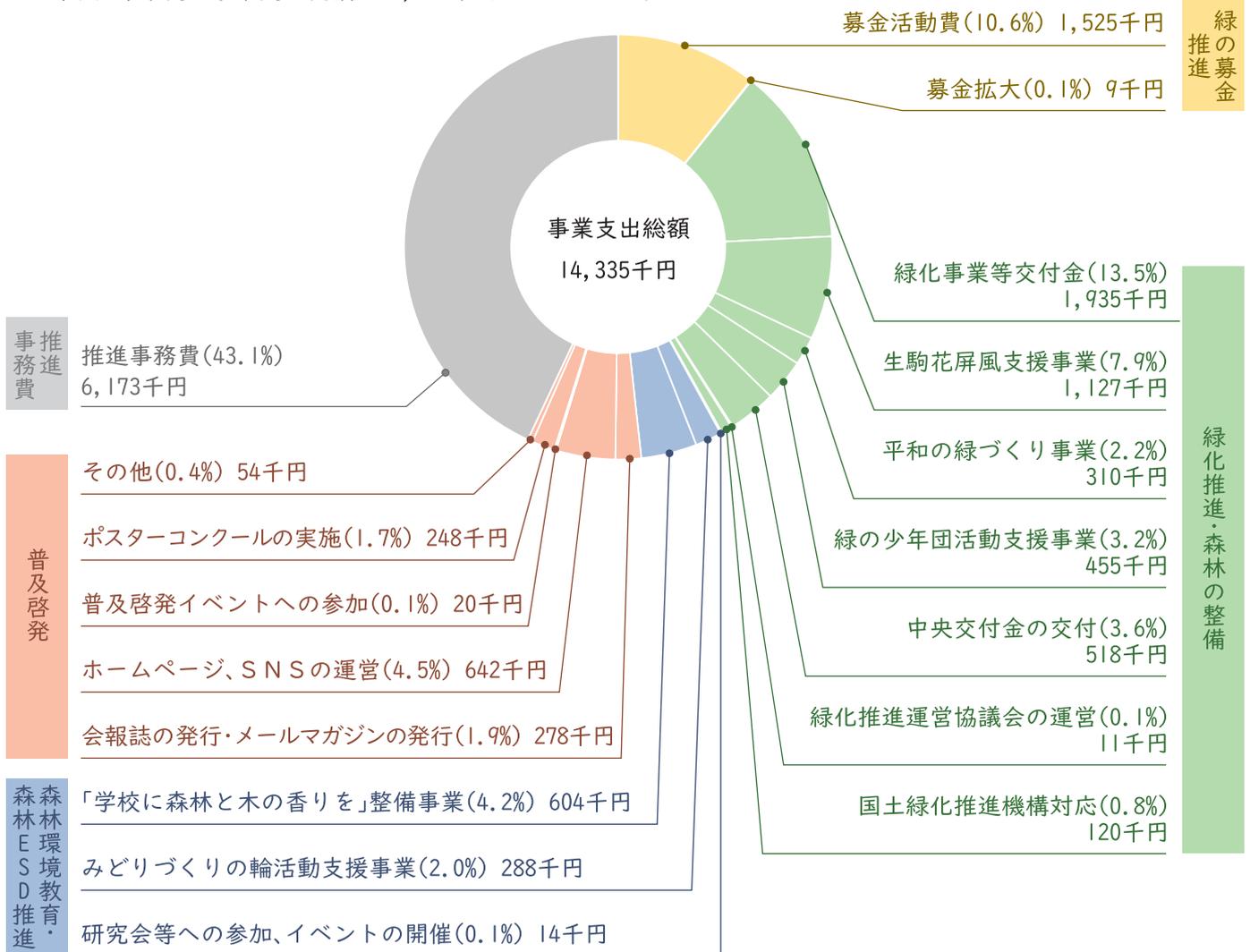
緑の募金 収入について

2020(令和2)年度の募金総額は12,914千円となり、前年比64%と大幅な減少となりました。



緑の募金 支出について

2020(令和2)年度の事業支出総額は14,335千円となりました。



緑の募金
推進

緑化推進・森林の整備

推進事務費

普及啓発

森林環境教育・推進

(1) 普及啓発資材の整備

緑の募金運動および普及啓発の円滑な推進を図るため、募金資材(緑の羽根、緑化バッジ、PRチラシ、ポスター、募金箱等)を整備しています。

コロナ禍による募金活動縮小及び募金減少を受けて、2020(令和2)年度、2021(令和3)年度用の緑化バッジの製作頻度・個数の調整を行いました。

〈近年の緑化バッジの製作の実績〉 バッジデザイン協力:大阪府立港南造形高等学校

用途	モチーフ	デザイン・製作時期	個数
2019(令和元)年秋季	カツラ	2019年春夏	5,000個
2020(令和2)年春季	ツクシ	2019年秋冬	13,000個
2020(令和2)年秋季	(製作せず)	—	—
2021(令和3)年春季	ナワシロイチゴ	2020年秋冬	7,000個
2021(令和3)年秋季	カキ	2021年春夏	3,200個(予定)



2021(令和3)年春バッジ
(ナワシロイチゴ)
大阪府立港南造形高等学校
下村真生さんのデザイン

(2) 募金活動の推進

日常的な募金活動に加え、募金キャンペーン期間を設け、大阪府庁舎などに募金箱を設置するなど、集中的に募金活動を推進しています。

〈キャンペーン期間〉

・春季 2020(令和2)年3月1日～5月31日 ・秋季 2020(令和2)年9月1日～10月31日

コロナ禍において、安全に募金活動を行っていただくため、公益社団法人国土緑化推進機構から提示された「募金活動を実施する場合の注意事項(新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて)」について、活動団体への周知をはかりました。



大阪府庁別館の募金箱

(3) 募金協力者の拡大

募金協力者を拡大するため、企業や団体、行政機関への働きかけを行っています。コロナ禍のため、人と人々が直接会って実施する募金活動(街頭募金、学校募金、家庭募金等)の縮小が見込まれたため、下記のような募金拡大対策を実施しました。

①フェイスブックの活用による緑の募金の呼びかけ

・2020(令和2)年春及び秋キャンペーン時において、ホームページ・フェイスブックにて情報発信を行ないました。

②企業募金へ呼びかけ

- ・春の街頭募金・学校募金の中止の状況を秋の大阪商工会議所 総会で会員企業へ呼びかけていただき、前年同様のご協力をいただきました。
- ・平和の緑づくり、生駒花屏風等の事業に対する募金、自動販売機募金等により、企業募金は前年同様の募金額となりました。

③大阪オリジナルピンバッジのバックナンバーを活用した募金の呼びかけ

・協会HPに緑化ピンバッジのバナーを設置し、認知向上を図りました。ガールスカウト等からも街頭募金に代わる募金方法として、過去のバッジの申し込み・活用がありました。

④キャッシュレス決済の導入に向けた準備

・PayPay株式会社のキャッシュレス募金導入に向けて、公益社団法人国土緑化推進機構と協力し、2021(令和3)年春から活用する準備を進めました。しかし、行政機関との調整に想定外の時間がかかり開始時期が大幅に遅れるとの報告を受け、2022(令和4)年春からの開始予定となりました。

緑化推進・森林の整備事業

緑化推進・森林の整備事業

(1) 緑化推進事業等交付金

募金活動に協力した団体、学校、企業による地域や学校の緑化を推進するため、募金額の40%を上限に、該当団体の申請に基づき緑化事業等交付金を交付しています。

2020(令和2)年度は、198団体に対し、1,856,794円を交付しました。



柏原市立玉手小学校



八尾市上之島小学校



貝塚市立二色小学校

(2) 堺第7-3区「共生の森づくり」の推進

堺第7-3区は、府内の産業廃棄物を受け入れ埋立てしてきた大阪府堺臨海部の産業廃棄物埋立処分場です。全体約280ヘクタールのうち、市民・NPO等の参加のもと森として整備することが位置づけられた100ヘクタールの区域を「共生の森」として、植栽及び草刈りイベントの開催等により森づくりを推進しています。

2020(令和2)年度は、コロナ禍のため、例年府民が参加して実施されていた「共生の森づくり」イベントは中止となり、NPOによる整備が行われました。

(3) 生駒花屏風支援事業

大阪商工信用金庫エコ定期「まねきeco」や「商工さくら基金」からの「緑の募金」を活用し、大阪の市街地から見渡せる生駒山系を屏風に見立て、府民の協働により、ヤマザクラなどの花木や紅葉の美しい樹木の植樹を進めています。

2020(令和2)年度は、生駒山系で里山保全活動などを行う7団体に対し、1,124,056円の助成を行い、145本の植樹が行われました。



なわて山守り隊

団体名	活動場所	内容・本数
大東北条里山クラブ	大東市北条	植樹・10本
日下山を市民の森にする会	東大阪市日下町	植樹木の維持管理
ひらおかの森を守る会	東大阪市出雲井町(枚岡神社)	植樹・30本
野崎と飯盛の山と緑を保全する会	大東市野崎	植樹・10本
なわて山守り隊	四條畷市下田原(ふれあいの森)	植樹・20本
森区山地保全会	交野市森南	植樹・40本
神立水呑地蔵講	八尾市神立(水呑地蔵尊周辺)	植樹・35本

(4) 学校等への助成事業

※詳細は、P. 24・25に掲載。

(5) 平和の緑づくり事業

大阪府内の株式会社平和堂店舗における有料レジ袋の収益金の一部を「緑の募金」としてご寄付いただき、幼稚園、保育園などで身近な緑づくり(植樹)と「緑の教室」の開催を推進しています。

2020(令和2年)度は、東豊中幼稚園(豊中市)、柱本保育園こども未来学舎(高槻市)の2園で実施しました。

〈東豊中幼稚園〉



紙芝居でヒメリンゴの特徴や育て方を教えてもらいました。



大きく育つことを願って木を植えました。



「みどりの教室」は、遊びながら植物について学びます。

〈柱本保育園こども未来学舎〉



紙芝居でマテバシイの特徴や育て方を教えてもらいました。



大きく育ってドングリがたくさん実りますように！



ツバキの葉笛は全員が鳴らせるようになるまでがんばりました。

(6) 緑の少年団活動支援事業

子どもたちが緑を愛し、緑を守り、育てる心を養うことを目的に、昭和35年より各都道府県に緑の少年団が結成されました。大阪では当協会が「大阪府緑の少年団連盟」事務局となり、緑の少年団への活動助成、交流集会の開催、全国大会への参加、団員の保険加入などを行っています。

2020(令和2)年度は、加盟する4団に助成を行いました。例年行っている交流集会はコロナ禍のため中止となりました。

〈羽曳野市緑の少年団〉



近鉄高鷲駅前にて「駅前花いっぱい活動」でパンジーを植えました。



自分たちの活動をPRしました。



おおさか「みどりの日」の活動でアスレチックを楽しみました。

(7) 緑化推進運営協議会の運営

緑の募金の適切な運用を図るため、有識者からなる緑化推進運営協議会を開催しています。
2020(令和2)年度の開催状況は以下の通りです。

6月5日(金) 書面決議	第55回 緑化推進運営協議会	議案 ・2019(令和元)年度事業報告について ・2019(令和元)年度決算報告について
11月6日(金) 書面決議	第56回 緑化推進運営協議会	議案 ・2020(令和2)年度「緑の募金」補正予算について ・緑化推進事業等交付金実績報告書提出期限の延期について
2月19日(金) WEB会議	第57回 緑化推進運営協議会	報告案件 ・2020(令和2)年度事業概要について ・2020(令和2)年度「緑の募金」収支決算見込みについて 議案 ・2021(令和3)年度「緑の募金」事業計画案について ・2021(令和3)年度「緑の募金」収支予算案について

【2021(令和3)年度の主な事業】

2021(令和3)年度もコロナの影響が残るスタートとなりましたが、募金活動を実施する場合の注意事項等を徹底していただくとともに、キャッシュレス募金の導入やSNSを活用した広報活動等、新たな時代に対応した募金活動を進めます。

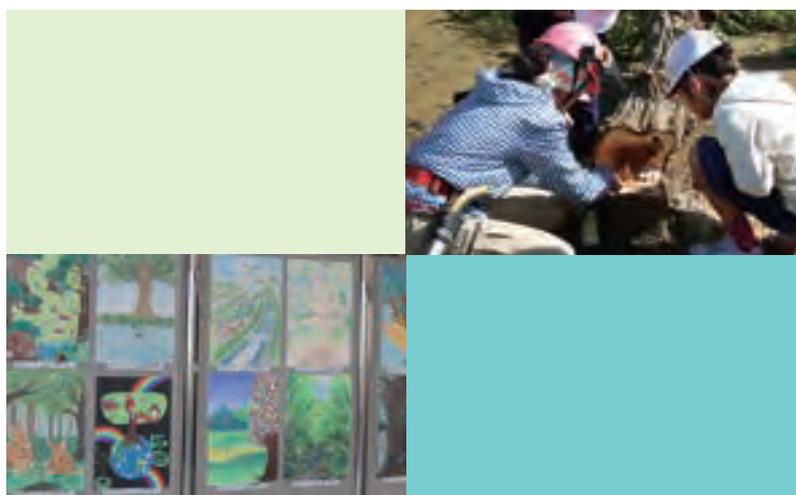
また、(公社)国土緑化推進機構とともに、SDGs達成への貢献を目指し、緑の未来を担う子どもたちへの助成など緑化推進・森林の整備事業を進めます。



森林環境教育・森林E S D 普及啓発 その他

森林E S Dを「持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目的に、森林・里山や校庭・公園などの身近な自然環境を活用して行う学習や活動」と定義付けし、より多くの小学校・保育の現場で質の高い森林E S Dが実践される環境の整備に向けて、関心を持つ諸団体と連携し、様々な取り組みを進めています。

普及啓発については、これまでの紙媒体を主体とした情報発信からの転換を図り、メールマガジン、ホームページ、SNS、動画配信等、多様な媒体による重層的な情報発信を行い、より多くの皆さまに当協会が行う事業について知っていただく機会を設けていきます。



森林環境教育・森林ESDの推進事業

森林環境教育・森林ESDの推進事業は、学校等への助成事業に加え、教育関係者・森林保全活動関係者のネットワークづくり、情報集約・情報発信、研究会・研修会の企画・開催、モデルカリキュラムの試行など、環境整備に主眼を置いた取組みを予定していましたが、コロナ禍のため、多くの事業が中止又は縮小となりました。

(1) 教員免許状更新講習会の企画・運営

2019(平成元)年度より、大阪教育大学、大阪府森林組合南河内支店等と連携し、教員免許状の更新時に受講する講習の一科目として「森林ESD」に関する講習を実現するべく準備を進めてきました。

残念ながら、2020(令和2)年度はコロナ禍のため講習が中止となりました。

(2) パネル展示の開催

2021(令和3)年2月に、近畿中国森林管理局「森林(もり)のギャラリー」において、幼稚園や保育園で行う、森林や園庭・公園など身近な自然環境を活用した自然体験の取組みなどを紹介するパネル展示を開催しました。



森林(もり)のギャラリーパネル展

(3) 学校等への助成事業

① みどりづくりの輪活動支援事業

子どもたちによる生物多様性につながる自然環境保全活動、森林整備活動、校庭・園庭等の緑化やビオトープの整備等への助成を行っています。

2020(令和2)年度は、豊能町立東ときわ台小学校、池田市立緑丘小学校の2校に対して助成を行いました。

〈豊能町立東ときわ台小学校〉



2006年につくられたビオトープは、ヨシやガマ等が伸び放題になっていました。



卒業記念のひとつとして6年生が活躍し、ビオトープを再生することができました。



2021年度は、この取組みを在校生が引き継いで、バタフライガーデンを仕上げる予定です。

〈池田市立緑丘小学校〉



密生していた外来種のシュロガヤツリを伐採し、泥をさらいました。



「みどりっこトープ」完成披露会。クイズ大会も開かれて大盛況でした。



池に生息するいきものの特徴や維持管理の説明をまとめた案内板。

②「学校に森林と木の香りを」整備事業

子どもたちが国産木材の利用や緑の効用について理解を深めるため、教育施設の木質化や森林に関する学習の実施に対する助成を行っています。

2020(令和2)年度は、社会福祉法人博光福祉会 彩つばさこども園(吹田市)、河内長野市立三日市小学校、大谷さやまこども園緑育の会(大阪狭山市)の3校・園に対して助成を行いました。

〈社会福祉法人博光福祉会 彩つばさこども園(吹田市)〉



木育イベントとは、子どもたちが体験しながら木について学ぶイベントです。



保育園児の興味や体力に合わせて工夫されたさまざまなプログラムで実施されました。



木を使った遊びを通して学びが深まることを期待します。

〈河内長野市立三日市小学校〉



地元の「河内材」を使った木製ベンチや掛け時計の製作に取り組みました。



地元の林業に関心を持ってくれることを願っています。



木の香りが漂い、温かな雰囲気が生まれ、児童や教職員、来校者の気持ちを和らげています。

〈大谷さやまこども園緑育の会(大阪狭山市)〉



地域の方々と樹木の栽培や花壇づくりを行っている園庭に、力をあわせて木材を運びました。



河内材を使ったテーブル・ベンチの作製。大工道具を使って組み立てました。



森林や木材への関心や豊かな感性の育みが得られたと思います。

【2021(令和3)年度の主な事業】

①教員免許状更新講習の企画・運営

- ・ 2021(令和3)年度も現時点で講習の中止が決まっていますが、2022(令和4)年度夏の実施に向けて、教材やプログラムの精査などの取り組みを進めていきます。

②パネル展示の開催

- ・ 2022(令和4)年2月の開催を予定しています。

③助成事業

- ・ みどりづくりの輪活動支援事業、「学校に森林と木の香りを」整備事業を継続します。

募集期間:2021(令和3)年7月13日(火)～9月10日(金) 実施期間:採択通知後～2022(令和4)年3月31日(木)

普及啓発事業

これまでの紙媒体を主体とした情報発信からの転換を図り、ネット環境の有効活用を進めました。

(1) 会報誌の発行・メールマガジンの発行

会報誌は年4回の発行を年2回としました。2月からは、メールマガジンで、イベント情報や保全活動地の情報、緑の募金の活用方法などを毎月1回(原則最終木曜日)配信しました。



会報誌:2020(令和2)年8月発行



会報誌:2021(令和2)年1月発行

(2) ホームページの運営

当協会の事業内容や支援者等の情報がタイムリーに更新できる機能面と、閲覧者の安全面や見やすさを考慮したサイトに改善するため、次の点に主眼を置いてホームページの全面リニューアルの準備を行いました。

- ・ 和泉葛城山ブナ林・三草山ゼフィルスの森・地黄湿地の保全事業に関する情報や緑の募金の活用方法などの情報発信頻度を上げられる設計にする。
- ・ 大阪にある里山保全活動団体の情報を集約し、情報を発信できるサイトを新たに作成する。
- ・ スマホ対応、全ページSSL対応 など。



ホームページのイメージ

(3) SNSの運営

引き続き、Facebook及びInstagramを活用し、活動報告等のタイムリーな発信を行いました。また、新たな取り組みとして、コロナ禍のため中止となったイベントや活動の代わりに、現地の様子を感じていただけるよう、活動地の動画を撮影・編集しFacebookにて公開しました。



Facebook：活動地の様子を動画配信



Instagram 画面

(4) 普及啓発イベントへの参加

例年出展しているクラフトイベント(平林まつり、森林の市、大阪自然史フェスティバル)は、コロナ禍のため、開催中止となりました。また、その他のイベントや各団体の催しにおいて、募金活動を予定していましたが、こちらも中止となりました。

【2021(令和3)年度の主な事業】

- ・ リニューアルしたホームページを活用し、情報発信の頻度を高めます。また、情報の蓄積を図り、資産となるよう運用を進めます。
- ・ FacebookやInstagramなどSNSへの情報発信を引き続き行うとともに、新たにYouTubeチャンネルを設置します。活動地の様子や魅力、シンポジウムなどを動画配信し、幅広い層へのアピールを行います。

令和3年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール

国土緑化運動を推進するためのポスター原画コンクールを実施しました。大阪府内の小学校・中学校・高等学校より113点の応募(参加総数541点。各学校10作品まで応募可)がありました。10月に審査会を開催し、大阪みどりのトラスト協会賞として13名を選び、国土緑化推進機構中央審査会に応募しました。(中央審査会入選はなし。)

2020(令和2)年4~5月に大阪府立中央図書館で予定していた令和2年用入賞作品の展示はコロナ禍で中止となりましたが、2021(令和3)年2月に林野庁近畿中国森林管理局「森林(もり)のギャラリー」にて令和2年用入賞作品の展示を行いました。

【大阪みどりのトラスト協会賞】

※学年は作品応募当時です。

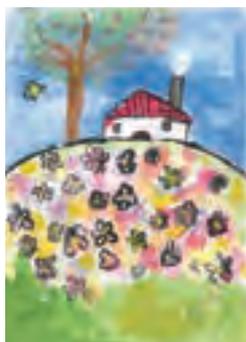
小学校の部



はれのひも あめのひも
大阪教育大学附属平野小学校
1年 大久保 慶人 さん



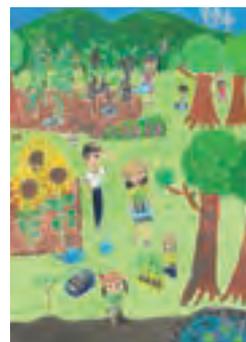
むしのせかい
箕面市立箕面小学校
1年 齋藤 奏汰 さん



お花畑
東大阪市立高井田西小学校
3年 日鷹 雪乃 さん



ヒマワリ畑でこんにちは
箕面市立箕面小学校
4年 永井 花 さん



自然豊かなみどり
箕面市立西南小学校
5年 北村 知奈 さん

小学校の部



希望の苗木
箕面市立西南小学校
6年 岡田 一路 さん



自然と共に
大阪市立鯉江中学校
1年 濱田 颯花 さん



自然
初芝富田林中学校
2年 今田 芽 さん



世界に彩りを
守口市立庭窪中学校
3年 藤田 茉緒 さん



暖かい背中
大阪市立東中学校
3年 小田原 侑花 さん

中学校の部

高等学校の部



住居
大阪市立工芸高等学校
1年 杉内 詩の歩 さん



みどりと一緒に！未来へ！
大阪市立第二工芸高等学校
3年 北牧 宏紀 さん



芽吹きと成長
大阪市立第二工芸高等学校
3年 太田 陽寧 さん



近畿中国森林管理局「森林(もり)のギャラリー」：令和2年用大阪みどりのトラスト協会賞14点と佳作17点を展示。

会議開催状況

2020(令和2)年度の理事会、評議員会の開催状況は以下のとおりです。

【理事会】

6月11日(木) WEB会議	第21回理事会	第1号議案「2019(令和元)年度事業報告について」 第2号議案「2019(令和元)年度決算について」 第3号議案「会計規程の改正について」 第4号議案「地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所との契約について」 第5号議案「第10回定時評議員会招集について 評議員・理事・監事の改選に伴う候補者の推薦について」
7月8日(水)	決議の省略	第1号議案「理事の改選に伴う代表理事(会長)選定の件」 第2号議案「理事の改選に伴う常務理事選定の件」
7月22日(水)	決議の省略	第1号議案「評議員候補者1名の評議員会への推薦の件」 第2号議案「監事候補者1名の評議員会への推薦の件」 第3号議案「評議員会の決議の省略による方法により、 評議員1名及び監事1名の選任を求める件」
10月27日(火)	決議の省略	第1号議案「評議員候補者1名の評議員会への推薦の件」 第2号議案「評議員会の決議の省略による方法により、評議員1名の選任を求める件」
11月10日(火)	決議の省略	第1号議案「理事候補者1名の評議員会への推薦の件」 第2号議案「評議員会の決議の省略による方法により、理事1名の選任を求める件」
12月4日(金) WEB会議	第22回理事会	第1号議案「2020(令和2)年度当初事業計画の変更点、及び収支予算の補正について」
3月17日(水) WEB会議	第23回理事会	第1号議案「2021年度事業計画について」 第2号議案「2021年度収支予算について 資金調達及び設備投資の見込みについて」 第3号議案「特定費用準備資金取扱規程の制定について」 第4号議案「特定資産取扱規程の改正について」 第5号議案「トラストファンドの取り崩し(2021年度)について」 第6号議案「常勤役員の報酬額の決定について」

【評議員会】

6月30日(火) WEB会議	第10回評議員会	報告事項「2019(令和元)年度事業報告について」 第1号議案「2019(令和元)年度決算について」 第2号議案「評議員の改選について」 第3号議案「理事の改選について」 第4号議案「監事の改選について」
8月13日(木)	決議の省略	第1号議案「評議員1名の選任の件」 第2号議案「監事1名の選任の件」
11月12日(木)	決議の省略	第1号議案「評議員1名の選任の件」
11月30日(月)	決議の省略	第1号議案「理事1名の選任の件」

内部管理体制の整備状況

2020(令和2)年度において下記の規程を制定・改正しました。

6月11日(木)	会計規程の改正
3月17日(水)	特定費用準備資金取扱規程の制定
3月17日(水)	特定資産取扱規程の改正

貸借対照表

(2021年3月31日現在)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部	円	円	
I 流動資産			
現金預金	39,573,678	44,869,615	△ 5,295,937
未収金	2,886,300	3,974,275	△ 1,087,975
立替金	14,082	11,642	2,440
前払金	560,925	894,817	△ 333,892
流動資産合計	43,034,985	49,750,349	△ 6,715,364
II 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,310,418	3,310,418	0
普通預金	10,000	10,000	0
投資有価証券	257,772,000	260,478,000	△ 2,706,000
基本財産合計	261,092,418	263,798,418	△ 2,706,000
(2) 特定資産			
トラストファンド			
普通預金	456,037	49,210	406,827
投資有価証券	23,776,500	29,801,360	△ 6,024,860
トラストファンド合計	24,232,537	29,850,570	△ 5,618,033
特定費用準備資金			
地黄湿地保全事業準備資金			
普通預金	6,000,000	0	6,000,000
大阪里山ネットワーク運営準備資金			
普通預金	4,000,000	0	4,000,000
特定費用準備資金合計	10,000,000	0	10,000,000
特定資産合計	34,232,537	29,850,570	4,381,967
(3) その他固定資産			
備品	512,188	664,373	△ 152,185
車両	82,615	578,305	△ 495,690
長期前払費用	8,830	8,830	0
立木	1,023,000	1,023,000	0
その他固定資産合計	1,626,633	2,274,508	△ 647,875
固定資産合計	296,951,588	295,923,496	1,028,092
資産合計	339,986,573	345,673,845	△ 5,687,272
II 負債の部			
I 流動負債			
未払金	6,955,560	9,079,405	△ 2,123,845
前受金	359,000	205,000	154,000
預り金	367,328	120,123	247,205
預り補助金	32,107,250	39,813,310	△ 7,706,060
流動負債合計	39,789,138	49,217,838	△ 9,428,700
負債合計	39,789,138	49,217,838	△ 9,428,700
III 正味財産の部			
I 指定正味財産			
大阪府出捐金	100,000,000	100,000,000	0
寄附金	126,341,618	126,341,618	0
有価証券評価差額	34,750,800	37,456,800	△ 2,706,000
基本財産合計	261,092,418	263,798,418	△ 2,706,000
ブナの森トラストファンド	15,538,212	19,164,068	△ 3,625,856
ゼフィルスの森トラストファンド	8,694,325	10,686,502	△ 1,992,177
トラストファンド合計	24,232,537	29,850,570	△ 5,618,033
指定正味財産合計	285,324,955	293,648,988	△ 8,324,033
(うち基本財産への充当額)	(261,092,418)	(263,798,418)	△ 2,706,000
(うちトラストファンドへの充当額)	(24,232,537)	(29,850,570)	△ 5,618,033
(うち特定費用準備資金への充当額)	(0)	(0)	0
2 一般正味財産	14,872,480	2,807,019	12,065,461
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(うちトラストファンドへの充当額)	(0)	(0)	0
(うち特定費用準備資金への充当額)	(10,000,000)	(0)	10,000,000
正味財産合計	300,197,435	296,456,007	3,741,428
負債及び正味財産合計	339,986,573	345,673,845	△ 5,687,272

正味財産増減計算書内訳表

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合計
	公 1 自然環境保全事業	公 2 緑の募金事業	共 通	小 計		
I 一般正味財産増減の部						
Ⅰ. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用益	0	0	0	0	3,500,131	3,500,131
基本財産受取利息	0	0	0	0	3,500,131	3,500,131
特定資産運用益	53,945	0	0	53,945	0	53,945
特定資産受取利息	53,945	0	0	53,945	0	53,945
投資有価証券売却益	0	0	0	0	0	0
受取会費	2,598,000	0	0	2,598,000	0	2,598,000
会員受取会費	2,598,000	0	0	2,598,000	0	2,598,000
受取補助金等	22,014,859	450,000	0	22,464,859	0	22,464,859
受取国庫補助金	5,294,033	0	0	5,294,033	0	5,294,033
受取地方公共団体補助金	11,589,000	0	0	11,589,000	0	11,589,000
受取民間補助金	5,131,826	450,000	0	5,581,826	0	5,581,826
受取受託金	0	0	0	0	0	0
受取負担金	242,552	0	0	242,552	0	242,552
受取負担金	242,552	0	0	242,552	0	242,552
受取寄付金	17,349,024	12,913,586	0	30,262,610	0	30,262,610
受取寄付金	11,548,224	0	0	11,548,224	0	11,548,224
受取寄付金 (トラストファンドからの振替額)	5,800,800	0	0	5,800,800	0	5,800,800
募金収益	0	12,913,586	0	12,913,586	0	12,913,586
雑収益	65,801	2,027,214	0	2,093,015	1,474,047	3,567,062
受取利息	0	10	0	10	51	61
雑収益	65,801	2,027,204	0	2,093,005	1,473,996	3,567,001
経常収益計	42,324,181	15,390,800	0	57,714,981	4,974,178	62,689,159
(2) 経常費用						
事業費	32,935,330	14,334,618	0	47,269,948		47,269,948
役員報酬	2,016,000	432,000	0	2,448,000		2,448,000
給料手当	12,088,363	3,617,458	0	15,705,821		15,705,821
福利厚生費	1,828,920	537,402	0	2,366,322		2,366,322
会議費	12,750	0	0	12,750		12,750
旅費交通費	571,202	71,851	0	643,053		643,053
通信運搬費	543,501	620,473	0	1,163,974		1,163,974
減価償却費	617,042	0	0	617,042		617,042
消耗品費	1,246,387	1,254,619	0	2,501,006		2,501,006
印刷製本費	337,320	250,605	0	587,925		587,925
燃料費	93,050	4,826	0	97,876		97,876
賃借料	5,253,380	1,354,881	0	6,608,261		6,608,261
保険料	607,962	4,316	0	612,278		612,278
使用料	337,625	62,703	0	400,328		400,328
委託費	4,202,392	853,718	0	5,056,110		5,056,110
募金事務費	0	91,854	0	91,854		91,854
諸謝金	788,200	43,000	0	831,200		831,200
支払負担金	1,948,389	180,098	0	2,128,487		2,128,487
支払助成金	280,980	2,447,056	0	2,728,036		2,728,036
支払手数料	128,703	75,064	0	203,767		203,767
緑化事業等交付金	0	2,431,894	0	2,431,894		2,431,894
光熱水費	6,564	0	0	6,564		6,564
租税公課	26,600	800	0	27,400		27,400
管理費					3,357,364	3,357,364
役員報酬					482,000	482,000
給料手当					361,561	361,561
福利厚生費					152,859	152,859
会議費					0	0
旅費交通費					22,030	22,030
通信運搬費					51,523	51,523
減価償却費					30,833	30,833
消耗品費					61,608	61,608
印刷製本費					12,760	12,760
賃借料					234,673	234,673
保険料					206,150	206,150
使用料					481,984	481,984
委託費					1,046,000	1,046,000
支払負担金					82,312	82,312
支払手数料					130,471	130,471
租税公課					600	600
経常費用計	32,935,330	14,334,618	0	47,269,948	3,357,364	50,627,312

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合計
	公 1 自然環境保全事業	公 2 緑の募金事業	共 通	小 計		
評価損益等調整前当期経常増減額	9,388,851	1,056,182	0	10,445,033	1,616,814	12,061,847
投資有価証券評価損益等	▲ 3,200	0	0	▲ 3,200	0	▲ 3,200
評価損益等計	▲ 3,200	0	0	▲ 3,200	0	▲ 3,200
当期経常増減額	9,385,651	1,056,182	0	10,441,833	1,616,814	12,058,647
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
前期損益修正		6,814	0	6,814	0	6,814
経常外収益計	0	6,814	0	6,814	0	6,814
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	6,814	0	6,814	0	6,814
他会計振替前当期一般正味財産増減額	9,385,651	1,062,996	0	10,448,647	1,616,814	12,065,461
他会計振替額	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	9,385,651	1,062,996	0	10,448,647	1,616,814	12,065,461
一般正味財産期首残高	8,481,149	▲ 3,320,302	0	5,160,847	▲ 2,353,828	2,807,019
一般正味財産期末残高	17,866,800	▲ 2,257,306	0	15,609,494	▲ 737,014	14,872,480
II 指定正味財産増減の部						
受取寄付金	286,827	0	0	286,827	0	286,827
基本財産評価損益	0	0	0	0	▲ 2,706,000	▲ 2,706,000
特定資産評価損益	▲ 104,060	0	0	▲ 104,060	0	▲ 104,060
一般正味財産への振替額	▲ 5,800,800	0	0	▲ 5,800,800	0	▲ 5,800,800
当期指定正味財産増減額	▲ 5,618,033	0	0	▲ 5,618,033	▲ 2,706,000	▲ 8,324,033
指定正味財産期首残高	29,850,570	0	0	29,850,570	263,798,418	293,648,988
指定正味財産期末残高	24,232,537	0	0	24,232,537	261,092,418	285,324,955
III 正味財産期末残高	42,099,337	▲ 2,257,306	0	39,842,031	260,355,404	300,197,435

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

<役員一覧>

2021年7月現在

会 長	石 井 実	大阪府立大学名誉教授 (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長
理 事	中 村 夏 美	大阪府生活協同組合連合会専務理事
理 事	葉 里 誠 司	大阪ガス株式会社 総務部管理チーム マネジャー
理 事	藤 原 宣 夫	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科緑地環境科学専攻 教授
理 事	前 迫 ゆ り	大阪産業大学大学院 人間環境学研究科長 教授
常務理事	長 井 聖 治	公益財団法人大阪みどりのトラスト協会常務理事
監 事	鎌 田 邦 彦	弁護士法人第一法律事務所 弁護士・弁理士
監 事	松 本 勝 幸	松本公認会計士事務所 公認会計士・税理士

<評議員一覧>

2021年7月現在

評 議 員	赤 井 俊 夫	大阪府環境農林水産部みどり推進室 室長
評 議 員	栗 本 修 滋	大阪府森林組合 代表理事組合長
評 議 員	阪 智 香	関西学院大学商学部教授
評 議 員	三 原 桃 子	大阪市建設局公園緑化部長
評 議 員	山 本 勝 利	大阪商工信用金庫 CSR推進室 室長

■ 表紙の絵

「はれのひも あめのひも」

令和3年用

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール

大阪みどりのトラスト協会賞

大阪教育大学附属平野小学校 1年(応募当時)

大久保 慶人 さん

■ 発行:2021(令和3)年7月

法人名称 公益財団法人大阪みどりのトラスト協会

所在地 〒559-0034

大阪市住之江区南港北2丁目1番10号 ATCビルITM棟11F西
TEL:06-6614-6688 / FAX:06-6614-6689

事業内容 1. 貴重な自然環境の保全及び生物多様性、里山の保全
2. 自然環境の保全、緑化に関する普及啓発及び調査研究
3. 緑の募金運動の推進
4. 森林環境教育・森林ESDの推進
5. 緑化事業、森林整備等への助成
6. ボランティアの育成、活動支援
7. CSR活動のサポート

設 立 1989(平成元)年11月1日

公益財団法人移行年月日:2012(平成24)年4月1日